

大阪+知的障害+地域+おもろい=創造

知の知の知の知

社会福祉法人大阪手をつなぐ育成会 社会政策研究所情報誌通算 4022 号 2017.11.16 発行

バリアフリーテーマに「熱血！販売甲子園」 誰にでも優しく 高校生から発信 群馬

産経新聞 2017年11月16日

高崎市の中心街を舞台に県内外の高校生が商品開発や販売を競うイベント「熱血！ 高校生販売甲子園」が18、19の両日、開催される。10回目の節目となる今年のコンセプトは「バリアフリー～誰にでも優しい街を目指して」。企画運営する実行委員会は、障害者が会場を利用しやすくするためバリアフリーマップの作製などを行った。昨年4月施行の障害者差別解消法が背景にあり、実行委は「販売甲子園でも取り組んでいるというメッセージ性を込めた」と話している。

販売甲子園は、高崎経済大学の学生でつくる実行委が高校生チームに資金6万円を貸与、各チームが予算の範囲で商品を企画し、仕入れや販売方法などに創意工夫をして販売活動を展開。「売上・利益・接客・コンセプト」などを審査して優勝を競い合う。にぎわいを創出するため、商売繁盛などを祈願する地元の「高崎えびす講市」と同日開催を続けている。

これまでに関わった高校生は延べ1500人超。今年は県内外30チーム・244人が参加し、県内からの参加は27チームと過去最多だ。総売上も増加傾向にあり、昨年は272万8480円を記録した。

障害者差別解消法では、障害のある人に対して不当な差別的取り扱いを禁止し、「合理的配慮」を提供することを行政や企業などに義務付けている。

だが、その周知は徹底されていないのが実情だ。実行委員長の金子湧人さん（20）は「イベントとしての販売甲子園を成功させることを前提に、視点を変えて（周知に向け）作用を及ぼしたいと思った。販売甲子園に求められているものが多くなっている」と話す。

バリアフリーマップ作製に際しては、実行委メンバーが中心商店街を歩き点字ブロックの設置状況などを確認。車いすに対応した駐車場13カ所やトイレ15カ所などの情報を盛り込んだ。1500部を作製、市内15の障害者施設に配布したほか、当日はJR高崎駅で配布する。

参加する高校生たちもバリアフリーに配慮。筆談の準備をするほか、手話の練習をする店舗もあるという。車いすの貸し出しも準備されており、金子さんは「関わる全ての人が快適に来場、参加することができ、充実したイベント体験が楽しめる会場にしたい」と意気込んでいる。（椎名高志）

お帰り！マコモタケ！ 菰野町特産、高松で育ち帰郷 産経新聞 2017年11月16日

菰野町特産のマコモタケの苗を高松市の障害者福祉施設が栽培し今秋、同町に出荷した。「里帰り」したマコモタケは観光施設で郷土料理として提供される。

福祉施設では「販売先が確保できた」と喜んでおり、同町も「農福（農業と福祉）連携の参考にしたい」と歓迎している。

栽培したのは高松市の社会福祉法人「ナザレの村」。障害者が就労研修をしながら栽培できて付加価値の高い作物としてマコモタケに着目、産地として有名な菰野町に協力を依頼

した。同町の生産者らが、除草作業や水の管理などをアドバイスしてきた。

無農薬で育てるため丁寧な手作業が必要といい、同施設でも丹精して育てた。菰野町から昨年5月に送った苗は無事育ち、2代目となる今年高松市で収穫した苗をひと冬保管して作付け。今年の収穫量は約50キロだった。

ただマコモタケは高松ではなじみが薄いため販売先が見当たらず、一大消費地でもある菰野町に出荷することになった。仕入れた同町の「鹿の湯ホテル」では、天ぷらやせいろ蒸しにして宿泊客らに提供する。

同町観光産業課の担当者は「高松の人と交流できただけでなく、社会福祉事業としても動きだしたことは良かった」と話している。

食生活切り口に発達障害児の二次障害予防 西九州大短大部



佐賀新聞 2017年11月16日
発達障害児の二次障害予防に向けた研究について会見した福元裕二学長(右)と川邊浩史准教授=佐賀市の西九州大学短大部

西九州大学短期大学部(佐賀市)は、発達障害児への理解不足や不適切な対応によって、情緒の不安定さや反抗的な行動を招く二次障害を予防する研究を始める。食に関する調査研究で、安定した生活環境づくりを支援し、保護者のストレス軽減も目指す。5年をかけて支援モデルを確立し、

成果を自治体に還元する。

福元裕二学長らが発表した。発達障害の子どもたちは偏食になるケースが多いことから、生活習慣の基本である食生活に着目して二次障害の予防を目指す。

具体的には、来年度まで実施する食行動の実態調査を基に、レシピを開発したり、保育現場で保護者を支える能力を向上させる手だてを考案したりする。文部科学省から毎年2千万～3千万円の助成を受ける。

三養基郡みやき町や同町の教育委員会、障害者自立支援施設などの外部評価委員の意見も取り入れる。研究を担う幼児保育学科の川邊浩史准教授は「食を切り口に、生活や心の安定につなげたい」と話す。

知らなかった「障害者特例」…医師の「無知」と患者の権利



読売新聞 2017年11月16日
社会保険労務士からの指摘

事故や病気で障害を負った時に支給される「障害年金」については、私はそれなりに勉強して知っているつもりでした。しかし特別支給の老齢厚生年金の「障害者特例」については、先日、社会保険労務士(社労士)に指摘されるまで、全く知りませんでした。

障害者特例とは、一定の要件を満たしている障害者に対して、老齢厚生年金(定額部分)の受給期間が追加される制度です。これは1985(昭和60)年に、厚生年金の支給開始年齢が60歳から65歳へと段階的に引き上げられたことで生じた特別制度なのです。

厚生年金に1年以上加入していたことがあるが現在は加入していないこと、現在60歳以上65歳未満であること、そして障害認定基準の別表で3級以上の障害があることが条件です。

さらに、この障害者が、支給開始年齢が段階的に引き上げられる年代にあたるのが特例の要件ですので、男性は昭和36年4月1日以前、女性は昭和41年4月1日以前に生まれた人が該当します。

制度について知らない…適切な診断書を書けない？

障害者特例の制度を知ったのは、重度の眼瞼けいれんの患者が社労士に相談したことがきっかけでした。

ちなみに眼瞼けいれんは、3級より軽い障害に対して支給される「障害手当金」の等級です。しかし、症状が治らず、障害手当金に相当する程度の障害の状態がある場合は3級に相当する可能性があることが、運用基準に定められていますので、社労士のいうとおり、申請する資格はあったのです。

そもそも医者が、障害者特例の制度について知らなければ、患者に情報を提供できません。また、患者が勉強して、医者に診断書を書くように求めたとしても、医者の方は、制度のどの部分を頼まれているのかわからないため適切でない記載をしてしまうこともあるでしょう。

福祉制度への関心、知識…医師の常識になる時代はいつ来る？

一般を対象にした講演会で、障害年金の話題が出た折に、参加者から「医者はいつ障害保険のことを勉強するのか」との質問が出ました。

医学の授業でこの制度を詳しく勉強する機会はないと思われれます。無論、医師国家試験にも出題されません。

しかし、患者さんには申請の権利があるのに、医師の無知のために情報が提供されないことがあれば、明らかに患者さんの権利を奪っていることになるでしょう。

大分前の話ですが、精神障害のある患者が「障害者や年金制度に関する情報を医師が提供しなかったために受けるべき年金などを得られなかった」として訴訟を起こしました。判決は医師側の敗訴でした。

このことをきっかけに、医師たちが日本のセーフティーネットについて関心を深めるかと思いきや、それほど動きにはなりませんでした。

医師国家試験にも出題されるようになるくらい、福祉関連の制度が医師たちの常識になる時代はいつ来るのでしょうか。

「心のケア」総合拠点整備 基本設計に盛り込む 初の児童心理治療施設など /山梨

毎日新聞 2017年11月15日

県は整備を進めている「子どもの心のケアに係る総合拠点（仮称）」を、甲府市住吉2の県研修施設跡地に建設することを決めた。14日までにまとめた基本設計に盛り込まれた。県内初の児童心理治療施設など4施設が集まり、増加する心のケアが必要な子どもに一貫した総合的な支援を行っていく。

拠点は、「こころの発達総合支援センター」▽中央児童相談所▽児童心理治療施設▽特別支援学校一で構成される。

安川電機など、福祉機器の連携研究 介護時の排せつ支援

日本経済新聞 2017年11月15日

ベッドと移動機器、トイレが連動する（イメージ図）

安川電機、TOTO、パラマウントベッド（東京・江東）と北九州市は福祉機器に関する研究を始めると15日発表した。要介護者がスムーズに排せつできるよう各社の機器を連動させる。市は国家戦略特区を利用した「先進的介護」を目指しており、企業連携による新製品やサービスの開発を後押しする。



メーカー3社の機器連携については、16日に北九州市内で始まる西日本国際福祉機器展にブースを開設する。

歩行困難な利用者がベッドから専用リモコンを操作すると、安川電機の移動アシスト装置がベッドに接近。電動ベッドは高さを調節して、利用者が起き上がる動作やアシスト装置につかまる動作を支援する。アシスト装置で歩いて [TOTO](#) の介護トイレに近づくと、トイレの便座が昇降して立ち座りしやすくする。

市と公益財団法人の北九州産業学術推進機構は32社・団体で構成する「北九州市介護ロボット開発コンソーシアム」を運営している。排せつ支援以外にも住宅メーカーなどに連携を呼びかけて、介護機器・サービスの開発や実証実験を促す。

翻訳アプリで外国人避難 消防庁指針策定へ京都で訓練 京都新聞 2017年11月15日



スマートフォンの翻訳アプリを使い、外国人の体調などを確認する従業員（右）＝京都市西京区

災害時に外国人や障害者に情報を伝え避難誘導するガイドライン策定に向けて消防庁はこのほど、京都市西京区の旅館渡月亭で訓練を実施した。

同庁は2020年の東京五輪・パラリンピックに向けて来年3月末までに、ガイドライン策定を目指している。

訓練は外国人25人、障害者10人、一般日本人25人、従業員8人が参加し、震度5の地震により2階で火災が発生したとの想

定で実施。緊急速報が流れると、従業員が多言語拡声器を使って「頭上に注意してください」と呼び掛けた。日本語と英語の館内放送で火事を知らせると、参加者は車いすを持ち上げて階段を下りたり、大きなスーツケースを運んだりして避難した。従業員はスマートフォンの翻訳アプリで外国人と話し、けがの有無などを確認した。

ガイドライン検討部会の野村歡（かん）副座長は「2階をセカンドフロアと訳したが、国によってはファーストフロアと言う。車いすの抱え方が適切でない様子もあった。検討したい」と講評した。

参加したフランス人で関西学院大2年のベルロ・マチューさん（28）は「アナウンスは聞こえにくかったが、翻訳できるアプリが分かりやすく、避難できた」と話した。

飲み物買って福祉に貢献 京都で収益寄付の自販機導入 京都新聞 2017年11月15日

地域福祉活動向けに収益の一部が寄付される自販機（亀岡市余部町・市社会福祉協議会）

京都府亀岡市社会福祉協議会は、収益の一部を寄付金として役立つ飲料水用自動販売機の導入に力を入れている。寄付金を地域福祉活動の財源とする狙いがあり、同社協は「ドリンクを買って地域福祉の貢献に」と期待する。

自販機は収益の一部を同社協に配分する。伊藤園（東京都）の協力を得て、同社協（同市余部町）のほか、吉川町自治会と馬路生涯学習センター（同市馬路町）に計3台を9月末に設置。今後も増やす方針で市内の自治会や企業に設置場所の無償提供を呼び掛ける。

自販機で得た寄付金は、福祉講座や地域サロンの開催経費などに充てる。設置や飲料の補充、空き缶回収は伊藤園



が担う。

同社協によると、自治会加入世帯の減少などから会員数と会費収入が減少傾向にあるといい、新たな財源確保を模索している。矢田勲会長（79）は「福祉に理解のある自治会や企業に協力の輪が広がってほしい」と話す。

自販機の設置には約1平方メートルのスペースが必要。問い合わせは亀岡市社協0771（23）6711。

ドキュメンタリー映画 てんかんと知的障害持つ女性と家族、35年の日常 「やさしくな あに」名古屋で18日から上映 /愛知 毎日新聞 2017年11月16日

てんかんと知的障害を持つ女性とその家族の日常生活を追ったドキュメンタリー映画「やさしくなあに～奈緒ちゃんと家族の35年～」が18日から、名古屋市東区東桜2の名演小劇場で上映される。作品は、横浜市在住でてんかんと知的障害を持つ西村奈緒さん（44）と家族を35年にわたり追いつけた。伊勢真一監督（68）は「35年も撮ることになるとは思わなかった。障害や病気などを抱えている人の家族など、いろいろな人に見てもらいたい」と話している。【三浦研吾】



「農福連携」目指して汗 読売新聞 2017年11月16日 サツマイモ収穫...小山の福祉事業所 サツマイモの収穫に汗を流すCSWおとめの利用者ら（15日、小山市下国府塚の市民農園で）

小山市下国府塚の道の駅思川に隣接する市民農園で15日、障害者の就労を支援する多機能型事業所「CSWおとめ」（同市乙女）の利用者10人が春に植えたサツマイモを収穫した。

農業の担い手確保と障害者の所得向上を図る「農福連携」の道を探るため、同市が約400平方メートルの区画を提供、利用者らが約1500本の苗を植え、実験的に栽培していた。

利用者らは事業所の農園でもサツマイモを栽培しており、この日と合わせて約400キロを収穫。干しイモに加工し、早ければ年内

にも道の駅思川で販売する。

事業所を運営する社会福祉法人「パステル」の石橋須見江常務理事は「干しイモだけでなく、冷凍焼き芋などの商品化も検討したい」と話していた。芋掘りに参加した大久保寿夫市長は「ほかの施設の参加や休耕地での栽培などに取り組みたい」との考えを示した。

笑い交え子育て語る ラジオDJ山本シュウさんが講演 神戸新聞 2017年11月16日



子育てのあり方について話す山本シュウさん＝神戸市中央区橋通3

ラジオDJで、大阪大非常勤講師の山本シュウさん（53）が15日、神戸市立婦人会館（同市中央区橋通3）で子育てをテーマに講演した。市立小学校PTA連合会の主催。子育て中の父母ら約250人を前に、親子げんかを一人で演じるなど笑いも交え、子どもとのコミュニケーションの取り方などを指南した。

テレビの障害者情報バラエティー番組の司会を務めるなど幅広く活動する山本さん。小学校のPTA会長を担った経験もあり、かぶり物姿で「レモン

さん」を名乗り、全国で子育てに関する講演活動も行う。

山本さんは、子どもの話を「聞く」▽理解に間違いがないか「確認」▽意見にひとまず「同調」—という「理解の3ステップ」が重要だと指摘。頭ごなしに叱る大人は「頭に昭和の（IC）チップが埋め込まれている」と話し、会場の笑いを誘った。

また、子どもは失敗して怒られると「失敗＝悪」と認識し、挑戦しなくなると指摘。失敗しても工夫を重ねる「成長サイクル」に導くのが親の役目だとした。小学2年の娘がいる女性＝北区＝は「子どもの言葉に耳を傾ける大切さを痛感した」と話した。（小森有喜）

袋井市役所に「善意」届く 児童施設で活用へ 静岡新聞 2017年11月16日



袋井市役所に届いた図書カードや年賀はがき＝同市役所

袋井市役所に15日までに、「へのへのもへじ」を名乗る差出人から、原田英之市長宛てに図書カード2万5千円分と年賀はがき600枚、商品券千円分が届いた。同市は市内の児童養護施設や障害児放課後児童クラブに贈り、図書購入などに活用してもらう。

同市役所に郵送で届き、「お役に立てればうれしい限りです」とメッセージが同封されていた。

同市には2013年度から送り主が特定できない同様の寄付が続き、今回で5年目。メッセージの筆跡から同一人物による善意とみられる。

市は今回の年賀はがき600枚に市のキャラクター「フッピー」のイラストと、市民の寄贈品であることを伝える文章を印刷する方針。市の担当者は「寄付してくれた方の思いに応えたい」と感謝した。

虐待事例 伝えるアニメ 読売新聞 2017年11月16日

◇大津のNPO ネット公開

大津市のNPO法人「子どもの虐待防止ネットワーク・しが」は、虐待事例をアニメ化した動画を今月からインターネット上で公開している。ストーリー仕立てで虐待についてわかりやすく学べると好評で、関係者は「県内外に広く児童虐待防止の機運を高めていきたい」と話している。

11月は児童虐待防止推進月間。（西海直也）

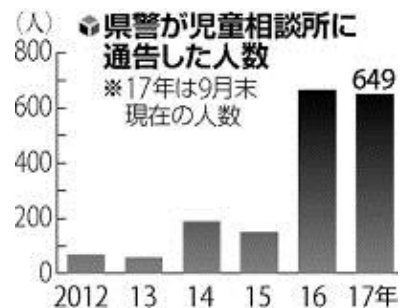
◇ネグレクトなど 物語仕立て「若い世代に」

同NPOは県警や県などと、次世代の親になる高校生たちにいち早く虐待について学んでもらう「オレンジリボン●プロジェクト」を進めている。9月から本格的に行っている高校への出前授業のなかで動画を上映。終了後のアンケートで「他のストーリーも見てみたい」という意見が多数あり、今月1日からの公開を決めた。

動画は、社会福祉士など虐待防止に携わる人らが実際に経験した事例を基に作成された。身体的虐待やネグレクト（育児放棄）といった虐待の基礎知識を学ぶ4種類と、自傷行為や拒食を繰り返してしまう女子高生など、より複雑な事例を集めた6種類の計10本。長さは2～3分のもので多く、アニメなので高校生らにもわかりやすいのが特徴だ。

第3話心理的虐待「もうひとつの顔」では、最近特に増えている子どもの目の前で親が配偶者に暴力を振るう「面前DV（ドメスティックバイオレンス）」も紹介。母親に手を上げたり、「誰のおかげでこんないいマンションに住めてると思うんだ？」と暴言を吐いたりする父親を描いている。

同NPOの松村睦子事務局長は「動画を見て、児童虐待は社会全体で考える必要がある問題だということに気づいてほしい」と強調する。動画は、見た人たちが会話（おはなし）



をしてほしいという思いから名付けられたサイト「おはなしオレンジリボン」(<http://www.orangeribbons.net/>)から閲覧できる。

県警が昨年、虐待の被害者として児童相談所に通告した18歳未満の子どもは663人。今年9月末現在ですでに649人(前年同期比129人増)に上る。

県警少年課の初宿亨・管理官は「若い世代に、児童虐待はあってはならないことだと、今のうちに気づいてもらえたら」と話す。県警などは今年度、県内の高校15校程度を目標に出前授業を行う予定だ。(●はSにダッシュ)

育て親、いかに増やすか 親元で暮らせない子4万5千人 塩入彩、山本奈朱香

朝日新聞 2017年11月16日



生後半年の男の子を預かる里親の女性(手前)と、NPO法人キアアセットの職員。里親が負担を抱え込まないよう、寄り添う

■小さいのち 育ちを支えて

親元で暮らせず、「社会的養護」が必要な子どもは全国に約4万5千人いる。多くは施設で暮らし、里親などの家庭に入れる子どもは2割に満たない。厚生労働省の有識者検討会は8月、就学前の子どもは原則施設に入れず、7年以内に75%以上を里親に受け入れてもらう数値目標を掲げた。現状では里親が足りず、養育の担い手をいかに増やすかが課題だ。

問題行動や発達障害などで困難を抱えた育て親への支援のあり方も問われる。朝日新聞社が児童相談所を置く69自治体に行った調査では、8自治体が2015年度に「里

親家庭で虐待を受けた事例があった」と答えた。

NPO法人キアアセット(本部・大阪府)は、里親の募集から研修、子どもを預けた後の支援まで担う。渡辺守代表(46)の母親が里親をしていて、その苦労を見てきた。3歳前に迎えた男の子は「おうちに帰りたい」と泣き、思春期には反抗し家を出たがった。母親は「私の命に代えてもこの子を育て上げる」と話していたが、最終的には、渡辺さんが代わって里親になった。

渡辺代表は「母も彼もがんばっていた。誰かが悪いのではなく、何かが欠けていた」と振り返る。キアアセットでは里親が困難を抱え込まないよう、担当者が寄り添って一緒に子育てを考える。支援さえあれば、普通の家庭が里親家庭になれると考えている。「でも、その普通の家庭で、特別な経験ができる子がいるんです」

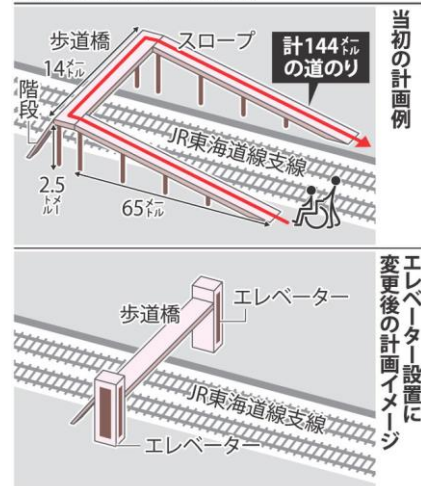
うめきた2期工事 140mスロープ橋 バリアフリーは?

毎日新聞 2017年11月16日

大阪市が計画した歩道橋

JR大阪駅北側の大型再開発「うめきた」2期工事に伴いJR東海道線支線下にある通路(長さ23メートル)を閉鎖する代わりに、大阪市が140メートル超ものスロープを備えた歩道橋の建設計画を公表したところ、地元が「バリアフリーになっていない」と再考を求めた。近くには身体障害のある子供らが入所する施設もあり、計画を再検討した市は、歩道橋にエレベーター2基を設置して移動しやすくする案に変更した。

大阪市が計画した歩道橋



介護施設のみそ汁「変な味」 異物混入容疑で職員逮捕 朝日新聞 2017年11月15日



介護施設側が報道陣に公開したビデオカメラの映像の一部。トレーを持つ右手の下に見える左手が、不自然な動きをしていたという

介護施設で職員用のみそ汁が入った鍋に異物を混入したとして、兵庫県警は15日、施設の非常勤職員の山森俊彦容疑者（52）＝同県伊丹市荻野西2丁目＝を偽計業務妨害の疑いで逮捕し、発表した。「下剤効果のある錠剤を入れた」と容疑を認めているという。

伊丹署によると、山森容疑者は13日、伊丹市内の介護老人保健施設「伊丹ゆうあい」の職員用の食堂で、みそ汁が入った鍋に異物を混入し、施設の業務を妨害した疑いがある。

10月30日と11月6日に、みそ汁を飲んだ職員から「変な味がする」との指摘があり、施設側は13日に鍋を置く食堂にビデオカメラを設置した。同日にも再び職員から同様の指摘があり、撮影内容を確認。山森容疑者とみられる男が鍋の前で不自然な動きをする様子が映っていたことから、伊丹署に相談した。職員に健康被害はないという。

施設を運営する医療法人によると、山森容疑者は春からこの施設で勤務し、利用者らを車で送迎するなどの仕事をしていたという。

保健所職員が108件の事務手続きを放置 松江 朝日新聞 2017年11月16日

島根県は15日、松江保健所の40代男性職員が、担当する事務手続きを処理せず放置していたと発表した。大部分は温泉を公共利用する際の届け出書類で、県民の健康や日常生活に被害を与えるものではないという。

健康福祉総務課によると、適切に対応しなかった事務は2013年度から今年7月までの間、松江市と安来市の計50業者から提出された、温泉法や旅館業法に基づく許認可や申請、届け出にかかわる計108件。県の調べに対し、職員は「忙しくて対応できなかつたり失念したりした」と話しているという。県は職員の処分を検討するとしている。

松江市が来年度の移行を目指している中核市になれば保健所事務が移譲されるため、温泉利用施設の立ち入り検査をした結果、判明した。今後はチェック体制を確立させるという。

受診時追加負担の病院拡大 400床以上で5千円 共同通信 2017年11月15日

厚生労働省は15日、大病院を紹介状なしに受診した患者に5千円以上の追加負担を求める制度で、2018年度から対象病院の範囲を拡大する方針を固めた。現在の500床以上（262病院）から400床以上に見直す方向で調整する。約150病院が新たに対象になる見通し。

軽症の人は身近な病院や診療所などのかかりつけ医を受診するよう促し、高度な医療を担う大病院との役割分担をさらに進める狙いがある。ただ追加負担の金額や、救急患者らには負担を求めない運用は変えない考え。

月刊情報誌「太陽の子」、隔月本人新聞「青空新聞」、社内誌「つなぐちゃんベクトル」、ネット情報「たまにブログ」も

